

# 千葉県 NEWS

CHIBA CANCER CENTER NEWS

## がんセンターニュース



第7号  
平成19年8月10日発行  
発行:千葉県がんセンター

### 理念

心と体にやさしいがん医療

患者さんの視点に立って、  
患者さん本位の医療を、  
患者さんとともにを行います。

## 医療の質と安全について

診療部長(医療安全管理担当) 河崎 純忠



2006年4月の診療報酬改定で「医療安全対策加算」の算定が認められるようになり、2007年4月からは「良質な医療を提供する体制の確立を図るための医療法等の一部を改正する法律」が施行され

たことで、入院設備をもつすべての医療機関は、医療事故、院内感染、医薬品や医療機器に関する安全管理体制の確保が義務づけられることになりました。この「安全」をキーワードにする医療政策の流れは決して唐突なものではなく、例年おこなわれる保健所の立ち入り検査においても、日本医療機能評価機構がおこなう病院機能評価の受審でも、医療安全に関する審査項目数が増加し、聞き取り調査も厳しくなっておりました。千葉県がんセンターが本格的に安全管理に取り組み始めたのは2001～2年以降のことで、医療事故や院内感染を防止するための要綱づくりから始まり、対策委員会を設置し、報告制度を立ち上げ、職員研修などを実施してきたわけですが、報告される医療事故、血流感染やMRSAの検出、予定外におこなった再手術など、いっこうに減る気配がありません(これらは千葉県がんセンターのホームページの医療安全情報欄に掲載されています)。例えばがんの術後の縫合不全や抗がん剤の

血管外漏出などは稀ではあるけれど避けることの難しい合併症で、できるだけ多くの人にこのような医療事故の存在、つまり医療の不確実性と危険性を認識してもらうことが大切です。ホームページに医療事故や院内感染の情報を掲載している理由の一つはそこにあるわけです。

法律や監査で安全管理の体制づくりが加速するわけでも、安全意識が高まるわけでもありませんが、職員の意識は少し変化してきました。医療事故を報告する習慣、それを議論する姿勢、学習し改革しようという意欲を感じています。どうやら、医療の安全を優先させる「風土」(これを「安全文化」というそうです)が千葉県がんセンターにもようやく根付いてきた、そんなところではないでしょうか。しかしながら、日本の医師達の周りには、医師の地域間格差、一部診療科医師の不足・不在、勤務医の慢性的疲弊、それらもさることながら、刑事訴追の恐れを心配しながら診療を行わなければならないという特異な日本の状況があります。刑事司法が医療事故に対する制裁にためらいがない限り、この状況は医療事故の真相究明にも再発防止にも寄与しないばかりか、医療の質を下げる力になることを懸念します。

# 研究の現場から

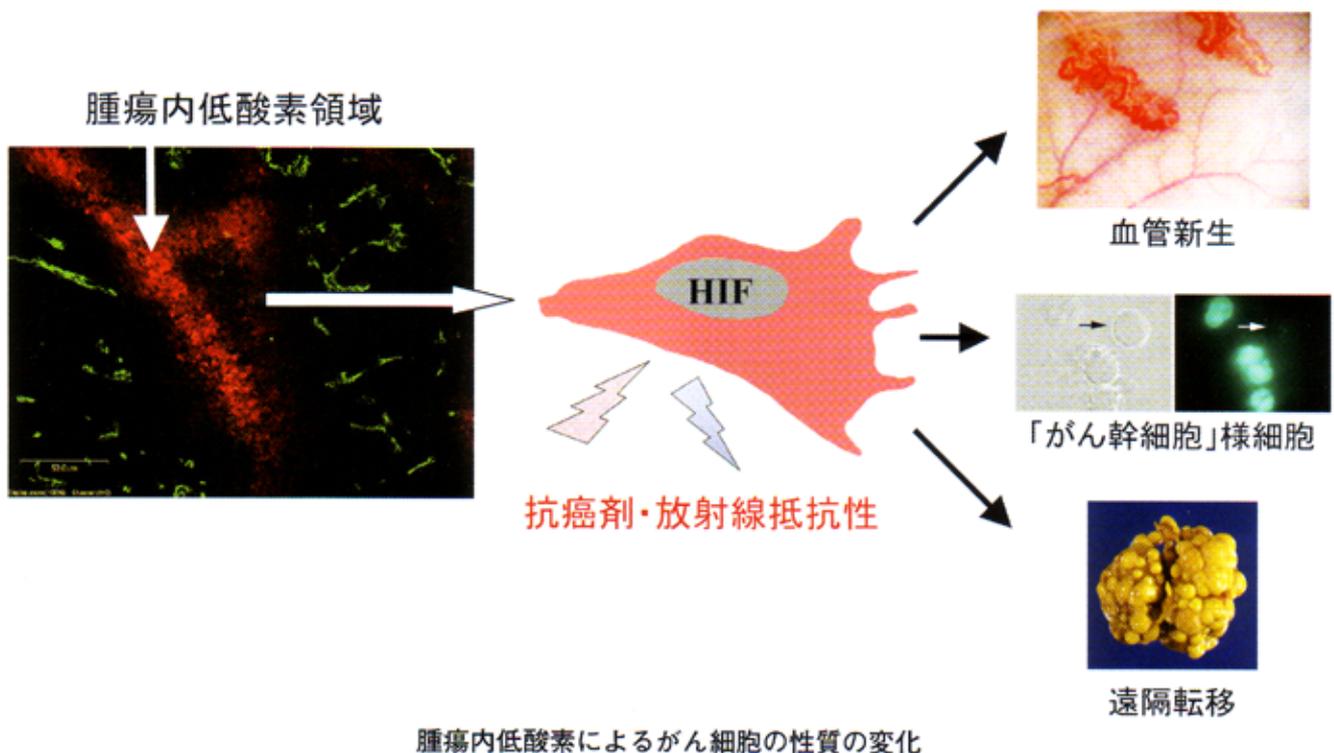
## 臨床と連携した がん転移研究を目指して 転移制御研究室 竹永啓三

**転** 移制御研究室は、研究局で従来から行われて来た研究を、プロジェクトを中心としたより効果的なものにするために、ゲノムセンター、アニマルセンター、トランスレーショナルリサーチセンター、がん遺伝子研究室とともに一昨年につくられました。当研究室では、がんの転移に関わる遺伝子の機能解析を行うことにより臨床応用可能な転移の予測や抑制法を考案することを第一の目的としています。言うまでもなく転移研究では臨床との連携が必須ですので、当研究室の設置を機会に、臨床のドクターやゲノムセンター（腫瘍サンプルおよび遺伝子材料の保存や遺伝子解析を担当）との連携を積極的にとりながら研究を進めることにしました。さらに他施設との積極的な連携のもとで、いくつかの遺伝子の発現やミトコン

ドリアND6遺伝子の変異と浸潤転移との関連を突き止めることができるなど、研究の着実な進歩が認められるようになって来ました。

当研究室ではまた、腫瘍内微小環境ががん細胞の増殖、分化、生存、転移、突然変異頻度などに与える影響を分子レベルで明らかにすることも目的の1つにしています。微小環境のうちでも特に抗癌剤や放射線治療に対する耐性、予後の悪さや転移との関連が知られている腫瘍内低酸素に注目して研究を進めています。最近、低酸素が肺癌細胞の脱分化を誘導し、がん幹細胞様の細胞に変化させることを見出しました。低酸素下のがん細胞はがん治療の障害の1つになっていますが、その性質を良く知ることによって、より効果的ながん治療のヒントが得られると期待しています。

今後、研究局ががん専門病院との併設であることの利点を生かし、臨床と一体となった転移の予防とトランスレーショナルリサーチを目的とした基礎研究を着実に進めて行きたいと考えています。特に、プロスペクティブ（前方視的）な研究に重点をおいた転移研究を進めたいと考えています。



低酸素は、がん細胞の抗癌剤や放射線に対する抵抗性の原因になるばかりでなく、血管新生、がん幹細胞様細胞への変化や遠隔転移を助長する。HIFはhypoxia-inducible factorの略で、低酸素応答で中心的な役割をしている転写因子のこと。

# 臨床の現場から

## がん専門修練医

消化器外科 池田 篤

**千**葉県がんセンターでは基幹病院として、患者さんに対する医療だけでなく医療従事者に対する研修も行われています。医師でいえば平成16年からスタートした新臨床研修医制度により、医学部を卒業したばかりの先生方が研修を行っているのはご存じとおもいますが、他にも研修を行っている医師がいます。「がんの診断・治療・研究に必要な高度先進的な知識と技術を有するがん診療の専門医を育成することを目的」とするがん専門修練医です。がん専門修練医は当センターだけではなく国立がんセンターをはじめ各所のがんセンターで募集を行っていますが、多くの施設で臨床研修を終了したばかりの医師を対象としており年齢制限があります。当センターでの応募資格は「応募時点で医師免許取得後4年以上の者」とされているだけで、その気さえあればどなたでも応募できます。実際私自身、地方大学の医学部を卒業しいぶ年月がたっていましたが、主に地方の小病院で働いていたため年をとっているのに技術が伴わない現状

に焦りを感じていました。そして最後の機会と思い昨年4月から千葉県がんセンターで勉強させていただいています。消化器外科については経験の豊富なスタッフの先生方の指導のもと各消化器がんにたいする手術やその他の治療技術の勉強をさせていただいています。症例数も豊富で開腹手術、鏡視下手術などいろいろな手術に実際に参加できるのは非常に有意義で勉強になります。この制度をはじめたときの千葉県がんセンターが想定していた対象者は多分臨床研修の終了した若い先生方だったとおもいますが、地方大学出身の医局制度が機能していた時期の医師、つまり卒業後ある程度年数のたった者のなかには小さな病院を医局人事で異動し十分な勉強ができなかったと、あるいはもっと技術を身につけたいと思っている医師はたくさんいると思います。そのような医師に当センターのがん専門修練医制度は魅力的な制度です。そして、制度だけではなくそういう医師を受け入れてくださるスタッフの先生方の柔軟さも特筆すべき点だと思います。今回の「臨床の現場から」はいままでと少し異なる内容ですが、これも千葉県がんセンターの魅力・特色の1つではないかと考えます。この制度が少しでも知られればと思いがん専門修練医制度について述べさせていただきます。

## 「千葉国際がんシンポジウム」

千葉県がんセンターでは、開設35周年を記念して、平成19年11月10日（土）に千葉市文化センターで「千葉国際がんシンポジウム」を開催します。すでにプログラムの概要も決定して、順調に準備が整いつつあります。このシンポジウムを通じて、千葉県の「地域のがん診療連携拠点病院」や周辺地域の多くのがん医療従事者が、世界のがん医療の進歩に触れることにより、お互いの連携を密にして、よりよいがん医療の提供に努力し、「がん医療の均てん化」に繋がるものと確信しております。多数の皆様の参加をお待ちしております。

35周年記念事業準備委員長  
医療局長 高木 敏之

**Chiba International Cancer Symposium**  
"New Era of Innovative Cancer Treatment"

**Main Topics & Speakers**

Session 1: Molecular Targeting Therapy  
Ali F. Gazdar (University of Texas, USA)  
Molecular targeting therapy in lung cancer

Session 2: Advances in Cancer Surgery  
Peter J. Roehrborn (Cooper Vachow Clinic, Germany)  
Aggressive surgery for hilar cholangio-carcinoma

Session 3: Diagnostic and Therapeutic Imaging in Cancer Treatment  
Gail ter Haar (Royal Marsden Hospital, UK)  
HFU as an image-guided minimally invasive cancer therapy

Special Lecture: Clinical Management of Cancer Therapy  
Richard S. Zimmelman (Mayo Clinic, USA)

Evening Seminar: Supportive Care for Cancer Patients and Families  
DeWayne N. Galenberg (Mayo Clinic, USA)

**Date: November 10<sup>th</sup> (Saturday), 2007**  
**Place: Chiba City Culture Center**  
Chuo 2-5-1, Chiba 260-0013, Japan

**Secretariat**  
The Chiba International Cancer Symposium Organizing Committee  
Chiba Cancer Center  
Natori-cho 666-2, Chuo-ku, Chiba 260-8717, Japan  
TEL: 043-294-5431 FAX: 043-262-9880  
URL: <http://www.chiba-cc.jp>

# 第6回 県民公開 セミナー開催の ご案内

日 時：平成19年10月27日（土）午後1時～午後4時（開場12時半）

場 所：千葉駅ビル6階ペリエ・大ホール

テ ー マ：「抗がん剤治療—最近の進歩」

講演内容：  
 新規抗がん剤開発の現況と展望  
 外来抗がん剤治療  
 看護の役割  
 消化器がんの抗がん剤治療  
 泌尿器がんの抗がん剤治療  
 肺がんの抗がん剤治療

司会  
 腫瘍血液内科  
 化学療法研究部  
 外来化学療法科  
 看護部外来  
 消化器内科  
 泌尿器科  
 呼吸器内科

熊谷 匡也  
 藤本 修一  
 辻村 秀樹  
 金敷 美和  
 傳田 忠道  
 植田 健  
 新行内 雅人

入 場：先着 400名（無料）

問い合わせ：千葉県がんセンター事務局医事経営課（TEL043-264-5431 内線2204）

平成19年8月1日現在の外来診療担当一覧です。

## 外来診療担当医表

診療科	曜日	月	火	水	木	金
センター長外来			電		電	
消化器外科		永田 趙 宮崎	山本(監) 早田 郡司	滝口 貝沼 郡司	永田 滝口 趙	山本(監) 貝沼 早田
消化器内科		山口 傳田	傳田 須藤	山口 傳田 (第2,4) 原 (第1,3,5) 中村	傳田 原	中村 (第1,3,5) 須藤
腫瘍血液内科 (外来化学療法科)		高木 熊谷 伊勢	酒井(力) 辻村	酒井(力) 熊谷 三村	熊谷 伊勢	酒井(力) (AM)熊谷 辻村
整形外科		館崎 米本	石井 竹内	館崎	館崎	館崎 石井 (PM)装具外来
乳腺外科		山本(監) 中野 藤森 三好	山本(監)	山本(監) 中野 藤森 三好	中野	山本(監) 中野 藤森 三好
皮膚科				(PM)米山		
呼吸器外科		木村 飯笹 芳野		木村		木村 飯笹 石川
呼吸器内科		新行内	新行内	新行内	新行内 新行内(増代)	新行内
(禁煙外来)					新行内(増代)	
(アスベスト専門外来)					新行内(増代)	
頭頸科		土井 (新患のみ)	土井 浅野 藤川		土井 浅野 藤川	
泌尿器科		浜野 今村	丸岡 浜野 二瓶 小宮	丸岡 樂山	丸岡 浜野 二瓶 樂山	二瓶 小宮
婦人科		(AM)加藤 (PM)田中	田中 鈴鹿 大崎 加藤	大崎	田中 鈴鹿 加藤	鈴鹿
脳神経外科		(PM)大里 井内		(AM)大里 (PM)井内		(AM)堺田
緩和医療科		渡邊/坂下	渡邊/坂下	渡邊/坂下	渡邊/坂下	渡邊/坂下
眼科						
歯口科			野村			
放射線治療部		幡野 酒井(光) 荒木	幡野 酒井(光) 荒木	幡野 酒井(光) 荒木	幡野 酒井(光) 荒木	幡野 酒井(光) 荒木
核医学診療部		戸川 久山	戸川 久山	戸川 久山	戸川 久山	戸川 久山
画像診断部		高野 船津	高野 船津	高野 船津	高野 船津	高野 船津
内視鏡検査		原 須藤	山口 中村	須藤 中村/原	山口 中村 宮崎	山口 傳田 原 須藤
超音波検査		中村	原 (高畑)		須藤 (高畑)	松本/三上 二村
心臓超音波検査		(PM)高部		(PM)佐藤		
消化管X線検査				三上/池田 二村		
緩和医療センター		渡邊(敏)	渡邊(敏)	渡邊(敏)	渡邊(敏)	渡邊(敏)

外来受付時間 午前9時～午前11時

診療時間 午前9時～午後5時

※医師の都合により休診・変更場合があります。

※歯口科、皮膚科は、当センター患者様のみ受診可能です。

予約センター

TEL.043(264)5431 内線2311

2318

2527



JR千葉駅から 所要時間:約25分

千葉中央バス:菅田駅、鎌取駅、千葉リハビリセンター、大宮団地(星久喜経由) 行乗車・厚生年金休暇センター前下車

JR鎌取駅から 所要時間:約13分

千葉中央バス:千葉駅・蘇我駅行乗車・厚生年金休暇センター前下車

JR蘇我駅から 所要時間:約16分

千葉中央バス:鎌取駅行乗車・厚生年金休暇センター前下車

松ヶ丘I.Cから

大網街道を大網へ向かって約2km右側



## 千葉県がんセンター

〒260-8717 千葉市中央区仁戸名町666-2

TEL.043-264-5431 FAX.043-262-8680

http://www.pref.chiba.jp/byouin/gan